

1. 単元名(主題) 「専門的課題研究における各自の研究活動」

～仮テーマの設定および仮チームの編成～

2. 本時の主題の概要および設定理由

本時より「専門的課題研究(1年半)」が本格的に始動する。生徒はこれから高2の最終発表に向けて、自ら問いを立てて仮説を検証する探究のサイクルを繰り返していくことになる。

本時の主題は、その根底となる「仮テーマの決定」と「仮チームの編成」である。課題研究においては、親しい友人関係(誰と組むか)ではなく、知的好奇心や進路(何を研究したいか)という共通の関心に基づいて協働関係を構築することが、研究の質と継続性を確保する上で極めて重要である。

本時では、生徒が自身の興味関心に合わせて複数の分野(自然科学、社会科学、人文科学、各ラボ等)の教室を自律的に移動し、担当教員や他生徒と対話しながらチーム編成を行う。また、チーム決定後は「研究計画書兼報告書」の共有ファイルを作成し、探究活動を客観的に記録する「探究ノート」の活用方法を理解することで、今後の持続的な研究活動への見通しを確立させることを目的として本主題を設定した。

3. 本時の目標

- 1) **自己の興味関心と研究テーマの関連付け:** 自身の進路希望や学術的・社会的な関心を踏まえ、これから探究したい事柄を「仮テーマ」として一言で具体化することができる。
- 2) **協働的なチーム編成:** 共通の研究関心を持つ他者と対話を行い、適切な規模(1チーム2～5名、または個人研究)での研究体制を自律的に決定・編成することができる。
- 3) **研究計画への見通し:** 専門的課題研究の今後の全体のプロセスを理解し、「研究計画書兼報告書」の共同編集や「探究ノート」への毎回の活動記録の必須性を把握して、計画的に活動を開始できる。

4. 本時の準備・使用教材

- 教員用提示資料: 『SS I 総探-第16回スライド』
- 使用教材(副教材): 『課題研究メソッド 2nd Edition』(岡本 尚也/新興出版社啓林館/2021)
- 生徒用ワークシート: 『探究ノート』(Google Classroomで個別配信済み)
- 共同編集用ファイル: 『研究計画書兼報告書』(指定共有フォルダ内原本テンプレート)
- 教員用管理資料: 『教室別名票』(各教室の担当教員に配布)、『HR別名票』
- 共有用デジタルファイル: 『専門的課題研究チーム編成表』(各教室用シート)
『SS I 分野&担当教員一覧』
- 共通参照資料: 『高1 SS I 学習の手引き』

5. 本時の展開(50分)

時間	学習活動	指導上の留意点・教員の支援
2分	(1) 出席確認と授業環境の確認 - 学問分野ごとに指定された教室に入室し、出席確認を受ける。座席は自由とする。 - 個人端末の準備を整え、Google Classroomから『第16回授業スライド(PDF版)』を表示する。	- ホームルーム別の出席確認を効率的に行う。 - 座席は自由とするが、出欠の不一致がないよう名票と照合する。
6分	(2) 専門的課題研究の位置づけに関する確認 - 後期の活動全体の見通し、および前期「ブレ探究」と「専門的課題研究」の違い(リサーチクエスションのサイクルを複数回繰り返すこと)を理解する。 - 細かなプロセスの指示を待つのではなく、進捗を担当教員に報告しながら主体的に進める姿勢を確認する。	- 今年度末に予定されている中間発表会(2月26日)というマイルストーンを提示し、活動の見通しを持たせる。 - ブレ探究とは異なり、今後の課題研究では「リサーチクエスション→仮説→検証→結論」の探究サイクルを主体的に繰り返す必要があることを説明し、自己調整学習の意識を促す。
3分	(3) チーム編成・最終調整の条件確認 仮チーム編成と仮テーマ決定の具体的なルール(1チーム2～4名、個人研究も可能、移動は自由だが声かけを徹底すること等)を把握する。	「誰と組むか」ではなく「何を研究したいか」の観点でチームを編成するよう、強く指導する。 - チーム探究を推奨しつつも、明確な研究テーマを持ち他者と折り合いがつかない場合は個人研究も認める旨を説明する。 - 移動の自由度を担保しつつも、教室を退出・入室する際は、該当教室の担当教員へ必ず挨拶・報告を行うようルールを徹底させる。
7分	(4) 今後の研究計画および各種ファイルの作成手順の確認 - 研究を進めるための「研究計画書兼報告書」の共有設定・名称変更の手順を理解する。 - 個人用「探究ノート」における「活動記録(本日の予定、活動内容、次に行うこと)」の毎回の記入ルールを把握する。	『研究計画書兼報告書』のコピー作成手順(指定フォルダ内原本のコピー、チーム番号へのリネーム)を実演または詳しく説明し、各チーム1名の代表者が速やかに作業を行えるよう支援する。 『探究ノート』が個人の学びを記録するポートフォリオであることを説明し、授業開始時の目標設定と、終了5分前のリフレクション記入を全員に徹底するよう指導する。
30分	(5) チーム(個別)課題探究ワークの実践 - 自由移動を行いながら、共通の興味関心を持つ生徒同士で対話を行う。 - チーム確定後、仮テーマを1つにまとめ、担当教員へ報告する。 - チームごとに『研究計画書兼報告書』のコピーとリネームを行い、共同編集を開始する。	- 教員はスプレッドシート『専門的課題研究チーム編成表』をリアルタイムで開き、決定したチームから順次入力・把握を行う。 - 教員間で連携し、教室内を巡視して、テーマ設定やメンバー固定に難航している生徒へ個別にアプローチ・面談を行い、決定を促す。 - ゼミコースとラボコースの混在など、特異な編成が発生した場合は教員間の連絡網で速やかに情報を共有し、事後処理を円滑に進める。
2分	(6) 本時の振り返りと今後の見通し - 本時の活動内容を振り返り、個人端末から『探究ノート』の活動記録欄に記入する。 - 次回以降、本格的に研究計画の策定に移ることを確認し、ホームルーム教室への移動準備を行う。	『探究ノート』の記入が全員完了しているか確認する。 - 活動スペースを整理し、次回に向けた見通しを持たせて終了する。